

—設備保全の情報共有・交流会—

北海道地区モノづくり・保全研究会

<https://info-jipm.jp/f/hokkaido/>

のごあんない



2026年度第1回開催会場：株式会社ダイナックス 苫小牧工場

2026年度 第2回 開催概要

日 時	2026年12月16日(水) 13時45分～ ※ はすかつぱホールでの受付開始は、13時15分からです ※ 終了時間は、17時00分ごろを予定しています
場 所	トヨタ自動車北海道 株式会社 はすかつぱホール 北海道苫小牧市字勇払145-1 (https://www.tmh.co.jp/profile/#nearby-information) ※ 集合場所は、現地集合です。駐車スペースをご用意いたします ※ 保安センターにて入場手続きを実施いただいた後、はすかつぱホールへお越しください ※ 参加者には、詳細を別途ご案内いたします
内 容	モノづくり現場でのからくり改善活用の可能性 ～からくりコンテスト エントリー設備の見学～ 保全の取り組み紹介 ～新人保全教育の取り組み～ プラント設備の取り組み紹介 ～バーチャルマスターオペレーター(VMO)によるリモート監視の取り組み～ ※ 見学の際は、保護具(帽子、メガネ、安全靴)の着用が必要です。ご持参ください ※ 見学内容は現時点での予定であり、変更の場合がございます
申 込 方 法	メールでのお申し込み受付となります。(FUKYU@jipm.or.jpまで) ※ 1社(1事業所)につき1名までのお申し込み(先着順)となります (参加お申し込み期日:2026年11月13日(金)。定員到達次第、募集終了となります) (お申し込み人数が定員に達しない場合は、追加募集をご案内します) ※ 同業種の方のご参加など、参加をお断りする場合がございます。 あらかじめご了承ください ※ メール送付の際は、下記内容をご入力ください - 件 名 : 北海道地区モノづくり・保全研究会のお申し込み - 本 文 : 貴社窓口ご担当者様情報 (貴社名、所属、役職、お名前、お電話番号) ※ 上記のメール返信にて、参加者情報を入力いただく指定様式をお送りいたします



北海道地区モノづくり・保全研究会ってなに？

研究会活動の紹介(2026年度第1回活動レポート)

テ　　マ	オーダーメイド設備を支える“保全技能の高度化”と教育体系の事例 ー 保全技術伝承のチャレンジと働きがいのある職場づくり ー		
開　催　日	2026年 7月 29日(水)		
開　催　場　所	株式会社ダイナックス 苫小牧工場(北海道苫小牧市柏原6番地170)		
プログラム	・ オーダーメイド設備を支える“保全技能の高度化”と教育体系の事例 ー 保全技術伝承のチャレンジと働きがいのある職場づくりー ・ ダイナックス 苫小牧工場における工場見学 ・ 取り組み事例のご紹介(専門設備 × 保全技能高度化 × 教育体系の事例)		
参　加　者	北海道地区モノづくり・保全研究会(東北地域保全研鑽会含む)会員　：　17名(12社)		
開　催　報　告	● 今回の北海道地区モノづくり・保全研究会は、株式会社ダイナックス様のご協力のもと開催した。今回のテーマは「保全技能の高度化と教育体系の事例 ー 保全技術伝承のチャレンジと働きがいのある職場づくり ー」。設備の安定稼働と人財育成について、ダイナックスの実践から多くの学びを得る機会となった。		
	1. 技術の深化と地域共創が支える企業基盤 ● ダイナックスは1964年の創業以来、クラッチディスク・プレートなど摩擦機能部品の専門メーカーとして発展し、独自の摩擦材技術と内製設備による高精度加工を強みに国内外へ製品を供給してきた。現在は北米・アジアへのグローバル展開を進める一方、既存技術に応用した新領域として紙漉き技術を活かした高機能シート開発にも取り組み、材料技術の多角的な進化を図っている。 ● さらに、地域との共生を重視し、苫小牧でのワイン事業やアウトドア文化を育むキャンプ事業にも参入。これらは単なる多角化ではなく、地域資源を活かし、働く人の誇りと楽しさを広げる企業文化づくりの一環として展開されている。こうした姿勢は、今回の見学会テーマを理解する上で重要な背景となった。		
	2. 工場見学で確認した保全上の課題 ● 工場見学では、自動車のクラッチディスクなどの製造工程、さらに摩擦材の特殊紙を製造する抄紙工場を視察した。いずれの設備も、設計段階から設備サプライヤーと協業しながら製作した オーダーメイド設備 が多く導入されている。 ● オーダーメイド設備は短時間で大量生産が可能な一方、使用実績がないため故障傾向が読みにくい、適正な交換頻度が不明など保全面では難易度が高い。また、修理対応には機械・電気・制御など幅広い知識が求められる、自社内で対応できる人財育成が不可欠となる。こうした背景が、ダイナックスの保全教育体系の強化につながっている。		
	3. 保全技能の体系化と人財育成への本気度 ● ダイナックスの保全部では、オーダーメイド設備に対応するため、多岐にわたる故障対策を実施している。修理履歴を管理し故障周期を把握することで事前交換を可能にし、事後保全中心の体制から摩耗・消耗部品の定期交換へと転換した。その結果、不良金額・不良率は活動開始期から毎月低下。2025年度は 23年度比 75%減 と高い成果を上げている。		
	● 人財育成にも力を入れている。機械系・電気系を区別しないOJT教育により、オーダーメイド設備に必要な幅広い修理スキルを習得。また、職業訓練指導員免許(国家資格)を取得した指導員が若手育成を担い、効率的な技能伝承を実現している。 ● さらに、機械保全技能士の取得を強力に推進。特級技能士には、特別手当を支給し、2024年度からは スペシャリスト制度を導入。特級取得後一定年数の経験者にはさらに手厚い支給制度が設けられ、参加者からも驚きの声が上がった。		
	4. デジタルと改善文化が生む“止めない工場” ● 保全改善活動も積極的に進められている。MTTR(平均修理時間)短縮とMTBF(平均故障間隔)延長をKPIに設定し、MTTRを前年比10%短縮、MTBFを前年比10%延長を目指す。BIツールによる故障分析の可視化、交換部品のユニット化による修理時間短縮、Copilotを活用した修理履歴の高度検索など、デジタルと改善文化が融合した取り組みが印象的であった。 ● また、故障受付ツールによる対応漏れ防止、自社内での天井クレーン点検自主検査員・動力プレス特定自主検査員の資格取得、海外拠点保全員の研修、動画手順書の整備、予備品管理の属人化回避、KAMAMESHI※の活用による長納期品の即時購入など、保全力を底上げする仕組みが多面で整備されている。		
	※ KAMAMESHI ： 部品管理と部品在庫の会員間売買サイト (https://kamameshi.com/lp01/)		
	5. 働きがいと成長を両立する保全組織へ ● 保全人員は高齢化が進み、50代が最多数層となる一方、40代以下のスキル不足が課題となっている。2024年度から計画的に増員し11名増えたが、スキル向上の教育が不可欠である。そのため、スペシャリスト認定制度を設け、キャリア形成と働きがいを両立する仕組みを整備している。 ● 今回の見学会では、保全技能を高める教育体系、技能伝承の仕組み、改善文化、デジタル活用、そして働きがいを生む制度設計が一体となったダイナックスの取り組みを学ぶことができた。北海道地区モノづくり・保全研究会では、今後も企業間の学び合いを通じて、地域の保全力向上を支えていく。 (記:JIPM 奥富)		

「設備保全」の業務は、「設備をいつでもロスなく稼働させる」ことが本来の役割。
その実現には、故障をはじめとしたロスの原因を見つけて、未然に対策を行うことが重要です。
しかしながら、自社で得た知見だけでは、なかなか対策が難しい場合もあります…。

北海道機械工業会と日本プラントメンテナンス協会では、
北海道地域の各社様の情報交換、情報共有の場をご提供することを目的に、
2022年度から「北海道地区モノづくり・保全研究会」を開催しております。

日頃の困りごとの解決や、他社の取り組み事例を知りたい方は、
この機会にぜひご参加いただき、参考となる情報を自社で活かしてみませんか？
(会員企業の方は参加無料ですので、お気軽にご参加ください)



研究会概要

活動内容

- 設備管理・保全に関する情報交換ならびに相互研鑽
- 設備管理、保全、モノづくり全般について先進企業の取り組み紹介
- メンバー企業の工場見学など年2回開催予定(2026年度)

参加対象

- 設備保全、設備管理全般の管理者およびご担当の方、人財教育の企画、実施のご担当の方